

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372102216		
法人名	南部薬品株式会社		
事業所名	グループホーム リズム		
所在地	岡崎市若松町字西之切50		
自己評価作成日	平成22年1月7日	評価結果市町村受理日	平成22年4月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ケア・ウィル		
所在地	愛知県名古屋市中村区則武1-13-9 チサンマンション第三名古屋1109号		
訪問調査日	平成22年1月21日	評価確定日	平成22年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員の教育については、定期的に勉強会があり他の研修にも参加できレベルの向上に役立っている。回想法もかね畑では入居者様が手作りの野菜が作られ常に新鮮な野菜が食べられたり、大通りから奥に入っている静かで隣には竹やぶなどがあり季節の変わりが分かり安全で安心して散歩など楽しむことができる。2ユニット関係なく職員も入居者様も一緒にの時も多く色んな変化にも気付く事が多い。複合施設なのでお互い行き来でき「元気！今日も頑張ろうね」と声を掛け合う場面もみられお互い助け合うこともありボランティアさんの参加も多く一人になることも無く楽しい施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

複合施設であり、同敷地内には有料老人ホーム、デイサービスセンター等が併設されている。施設内に看護師が配置されていることから、24時間対応の医療支援に支えられ、看取りを行う体制が整えられている。日々のケアでも看護師が入居者の健康管理を行っており、職員はいつもで看護師に相談することができ、場合によっては医療機関と連絡を取り連携を図っている。デイサービスセンターには大浴場、足湯、機械浴、特殊浴など種類が多く、ホームの入居者も利用することができる。足湯につかりながら、ガラス越しに見える小学校の子ども達が入居者に手をふるなどの交流もある。小学生の職場体験の受けれもっており、子ども達とふれあう機会がある。ホームの庭では、家庭菜園を行っており、できた野菜は食事に提供されている。行事には家族だけではなく、近隣の方も参加し交流している。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	掲示板、廊下、玄関に提示されている。月に一度ミーティングの時確認している。職員がやるのではなく一緒にやりまた、見守ることを職員統一させている。	ホームの理念は、「いたわり、たすけあい、おだやかに、ともにくらす」であり、職員と一緒に作りあげた。あえて分かりやすくひらがなにした。満足してもらえる環境をつくるため、ミーティングで理念を振り返る機会を設けたり、職員間でも時間を作り話し合いがされ、実践に向け取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	夏祭り、運動会、クリスマス会などの行事など地域の子供や近所の方など沢山参加してくれたりし定着している。近所の農家の方から野菜など頂き交流は深い。毎月ボランティアの方がみえ一緒に参加している。	施設の行事(運動会、夏祭り、クリスマス会等)の案内は、回覧板を活用したり、ホームページに掲載する等、地域の方に参加を呼びかけており、地域の子どもや近隣の方が多く参加している。散歩の時、挨拶を交わしたり、近隣の方から野菜や花を頂くこともある。また、神社の清掃を行い、地域との交流に取り組んでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	二ヶ月に一度運営委員会を開き交流また入居者様の様子や出来事を写真を見ていただいたり一緒に参加をしている。民生委員の方も二人増え参加頂いています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議行なったあとは、職員にも伝え報告や話し合いがなされている。総代さんや近所の方の意見を聞きたく組長会議にも参加させていただいています。	メンバーは地域総代、民生委員、家族代表、岡崎市役所長寿課職員、地域包括支援センター職員となっており、2カ月に1回開催され、ホームの様子や現状等を報告している。地域総代より近隣の意見、要望が会議で報告されており、ホームは改善に向け取り組んでいる。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に一度市の相談員さんがみえ、一緒に話をしたり中庭で遊んだり長時間にかけ接していただき色々な方面から取り組んで下さっています。職員も相談にのって貰ったりアドバイスももらったりと交流がとれている。	法人内において行政の窓口となる担当者が配置されている。市からは介護相談員の訪問があり、1日ゆったりと時間をかけ、入居者と一緒に話をしたり、中庭で過ごしたり、職員の相談にのってもらったりしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束の内容を確認し常に再確認が出来ようファイルが保管してある。時間があれば職員同士見直しをしている。	基本的に身体拘束はしない方針である。入居者の考えを尊重し、やりたい事はどんな事でも行ってもらえるよう支援している。施設の行事などでは、入居者の参加は強制せず、本人の思いを汲み取りながら声をかけている。職員は、何事に対しても「ありがとう」の気持ちを忘れないよう心がけている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待、放任の種類なども、しっかり学び常に再確認が出来ようファイルがあり、ミーティング時も話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族会、面会時など話している。該当しないため今後の課題となる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時十分な説明をし理解していただけるよう家族の方に不安なく、安心してもらえるまで説明をしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に意見箱を設置している。又、家族会、面会時にも意見を聞くようにしている。	施設内に意見箱を設置しているが、面会時に直接、職員に話される家族が多い。また、家族会が年2回開催され、意見や要望などを聞いている。ホームで発行している便りには、入居者の様子を写真で載せたり、担当職員がコメントを記入して家族に伝えている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングの中で意見や提案を聞くようにしている。又、職員の個別面談もあり不満や意見も聞くようにしている。	月1回ミーティングが行われ意見交換を行っている。また、人事考課で個別面談を実施している。職員が全員参加できるよう何回かに分け、食事会、新年会や忘年会を開催し職員同士の交流も大切にしている。管理者は、職員が仕事に専念できるよう雰囲気づくりにも配慮している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談、食事会等職員とコミュニケーションをとり日ごろの様子、体調も観察している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に勉強会を開催している、全員参加できるように何回かに分けて行っている。又、社外研修にも参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小部会、ブロック交流会に参加して相互研修や意見交換等行っている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族、友人などに情報を聞き、話しやすい環境を整え不安を取り除けるようサポートする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前もこまめに連絡をし、入居に至るまでに不安、困りごとを取り除いている。入居後も同じで最近の様子なども伝えたりしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後、一週間置きにカンファレンスを行い職員だけではなく、ご本人も一緒に参加し要望に添えるよう支援している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	こちらがしてあげるとい姿勢ではなく、させて頂くという気持ちを心掛け、人生の先輩に教えていただくという関係が築かれている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	リズム便りという定期的にご家族に送付する新聞を作り、施設行事や家族会に参加して頂けるように心掛けています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の方ももちろん、知人の方も面会に訪れている。又、家族の方を通じて外出などを呼びかけ、ご本人様が寂しい思いをしないように心がけている。	家族の協力を得て、本人の馴染みや行きつけの場所への外出を支援している。個別の対応は難しく、2～3人で出かける事はある。また、近くに住んでいる知人、友人が訪問されたり、退居された方の家にあそびに寄ったりと良い関係を築いている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同作業を通して、一人一人の個性を大切にしながら交流を深めています。又、入居者様同士でぶつかる事もありますが、お互いの意見を聞き支えあっています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても年賀など出したり買い物に行きに寄ったりとしている。時々職員、入居者様の顔をみにきていただける方も見え相談したりして今だ良い関係をたもっている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに希望を聞きまた家族にも協力してもらいアセスメントをとり希望を叶えるよう心がけている。職員も希望に答えられるよう担当者会議など向上につとめている。	出来る事、出来ないシートを作成し、できる事は職員が見守り、本人のペースで過ごしていただいている。希望や意向を言われない入居者には、隣で行っている事を「一緒にやってみませんか」と声をかけ、行ってもらい、その中で新しい発見や気づきを見つかる事もある。職員は一人ひとりの個性、状態に合わせた支援を心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から生活歴、これまでの暮らしぶりなど書いていただき職員全員把握している。また一緒に居るなかで新しい発見気があれば記入に残し把握していく。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できる事、出来ないシートを作成しできることは無理をせず職員が見守り出来ないではなく一緒にやっていき見守りですむことも増えてきた。新たに見つけ出す事も大切なことなので職員に把握してもらう。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の各担当と職員ケアマネと家族の方と担当者会議を開き要望意見、意向を聞き介護計画書を作成し同意を確認している。モニタリングのほか毎月のミーティングにも話し合いも行っている。	入居者、担当職員、ケアマネジャー、家族にてサービス担当者会議を開き、介護計画の見直しを3カ月毎に行っている。また、急を要する場合はその都度、介護計画の見直しを行う。担当職員とケアマネジャーでベースになる介護計画を作成し、他の職員に確認してもらい、家族からも意見を聞き、希望があれば計画に反映している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の日課や介護計画書や暮らしぶりのファイルをみて入居者様の一人ひとりの日課表を作り自分でやれたことををうち一日の出来事や反省や感想をきいている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	業務日報、介護記録、連絡ノートを活用し常に対応できるように心がけた毎月のミーティングでも再度話し合いをする。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩、近所の買い物など心がけ施設のイベントも多く全員参加しその人らしく生活が送れるよう、している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医、入居前のかかりつけ医どちらにも受診することができる。協力医療機関等と連携がとれておりいつでも適切な医療がうけられるよう支援している。	入居前からかかりつけ医を希望される場合は、家族の協力を得て受診している。毎週木曜日に同敷地内にある施設に往診があり、入居者も定期的に月1回受診している。また、心療内科の往診も月1回ある。必要に応じて訪問歯科医の受診を支援している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しでも変化があれば看護師に相談し往診時伝えたり連絡ノートやファイルを活用し細かいことまで記入適切な受診ができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、本人、家族の方の同意のもと情報交換や相談にも努め病院関係には面会をこまめに行き本人の様子を見に行っている。病院関係の方とも相談するとよいアドバイス協力してくれる。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	24時間看護師と連絡が取れ協力体制ができています。対象者の方がみえないが、勉強会や他のグループホームの方に聞いたりしています。	ターミナルケアにおける事業所の方針は契約時に説明し、理解いただいている。現在対象者はいないが、看護師が同敷地内の施設にいるので、24時間対応が可能であり、協力医との連絡もすぐにとれるようになっている。また、医療機関と連携し、状況に応じて速やかに対応できる体制ができており、安心に繋がっている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内の勉強会や社外の勉強会など出席している。ミーティング時にもやり学んでいる。緊急マニュアルがファイルと電話の隣においてある。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二度消防訓練を行い消防の方にも来て頂き消火器などの使い方など実際に触れたり夜間時の対応も夜勤者と話し合いをしたり通路の確認を毎月行っている。	年に2回、消防、避難訓練を消防署の指導のもと実施し、消火器などの使い方を実際に使用している。昼間の訓練には、入居者も参加し、夜間は、夜勤の職員が避難経路の確認をしている。ホームは町内の避難場所に指定されており、備蓄品の水、食料、毛布等が1週間分用意され、定期的に交換している。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人取り扱いは職員全員に説明をし記録などは事務所で管理されている。馴れ合いすぎる言葉や話し方など注意するなど信頼関係が慣れなれしくならないよう職員同士確認みなおしをしている。	入居者に対する言葉遣いや話し方、態度、しぐさなどが、ぞんざいになっていないか、普段から職員同士でチェックし、不適切な場合には注意し合っている。呼び方については、基本的に「さん」づけで呼んでいるが、本人の希望がある場合は希望に添っている。トイレ誘導時は、入居者の尊厳やプライバシーを損ねないよう心がけ、支援している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの能力や状態にあったサポートをし、押し付けにならないように希望や表出引き出せるよう心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご自分のペース、趣味を生かして時間に制限なく過ごしていただいている。入浴も午前、午後どちらでも好きな時間に入浴していただいている。見えない心の動きも取れるとより良い生活になる。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度メナード化粧品や美容など本人様に聞き行なったり女性職員が多いので一緒に服を選んだり買い物に行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事を作ったり買い物へ行ったり献立を決めたりして入居者様が好きな物など聞き栄養色合いなど考え一緒にしている。	入居者と職員と一緒に献立を考え、買物に行き調理している。誕生日、クリスマス会等のイベントには寿司、鍋物、ケーキなど入居者の希望を聞き、食事を楽しんでもらっている。できる範囲で食事の片付けも入居者と職員一緒に行っている。喫茶店、うどん屋、回転寿司など外食する機会も設けている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量など介護記録にて記入し月単位で変化がわかるようになっている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアは必ず行っている。見守り、介助の必要な方もいるので職員の指導も兼ねて勉強会も行っている。訪問歯科の先生にもしっかりできてきていると褒め職員意識の向上につながった。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方にあった排泄方法で声掛けや見守りなど困難などあればカンファレンスや会議など開き実際にオムツからリハビリに変更になったケースもある。	気持ちよく排泄するために1日1回は体操をしている。水分をこまめに取ってもらうように日中はポットに、常時お茶を置いている。入居者の排泄パターンを把握し、一人ひとりにあった排泄方法を支援しており、オムツからリハビリパンツ、リハビリパンツから布パンツへと、自立にむけ取り組んでいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	介護記録など家族からの情報のもと便秘など気をつけ運動、体操など毎日行っている。献立にも気を配っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望があれば午前、午後好きな時間に入浴でき体調に合わせて安心してゆっくり入浴でき会話などで安らげるよう支援している。複合施設なので大浴も使用し温泉気分を楽しむときもある。	入居者の希望があれば午前、午後、好きな時間帯で入浴している。入浴剤を使用したり、季節の菖蒲、柚子湯なども楽しんでいる。曜日を決めて、同法人の大浴場を利用しており、入居者全員で入る事もでき、温泉気分が味わえる。隣の小学校が眺める事のできる足湯があり、足湯につかりながら外の小学生と手を振って交流している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決まらず好きな時間にやすまれ就寝するまで一緒にくつろぐなど安心できるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員薬剤の目的や用法など把握している。新人には時間の空いているとき観てしっかり覚えてもらう。服薬時声掛けなどして服用するまで確認する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の個性を生かし今やってみたいことなど聞き支援している。掃除、洗濯、食事作り、畑仕事針仕事など年に二度の日帰り旅行も行き先をみんなで意見を出しきめている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日中は、中庭の出入り口を開放いつでも行き来できるようにしている。外気浴を楽しんだり食材を買いに外出したり近所の薬局に遊びに行くなど行きたい所はなるべく行けるように支援している。	毎日散歩に出かけている。近所の薬局に行ったり、食材の買物は1日おきに出かけるようにしている。ゴミ捨てに行く時は、散歩がてら帰りは遠回りをしたりしている。年2回の日帰り旅行を支援しており、昨年はマイクロバスを借りて南知多ビーチランドへ出かけた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時お金を渡し個人でお菓子、野菜など買い物して頂いています。外食の時も好きな物を自分で選びや頼んで買うを一緒にやっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ手紙を書くこともありハガキを買うところから始め楽しさ忘れないよう支援しています。電話も予め電話する日にちを家族のかたに了解を受け電話し楽しいひと時を過ごしてもらっています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使われている家具、や私物などを持ってきて頂いたりなるべく施設感の無いように工夫を心掛けています。廊下やフロアーには季節感をだしレイアウトされ入居者様の目がとまる。	中庭を囲んでL字型に共有スペースが2ユニットあり、日中には中庭に出る扉が解放してある。夏にはテントを張り、日陰を作り芝生の上にゴザを敷き、昼食を取ったりしている。南側のテラスも広く、日向ぼっこがゆったりとできるようになっている。共有スペースには大きな丸テーブルがあり、入居者全員と職員が顔を合わせることができ、コミュニケーションが取りやすくなっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各部屋に椅子など入れ入居者様同士話をしたりお菓子たべたりすることも多くなり楽しまれている。外にはベンチ、ロッキングチェアなどを置き外気浴を楽しまれたりされています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使われているものを持ち込みご本人様の好きな位置に家具など置き散歩で頂いた花や絵などご自分で飾ったりされている。	各居室には洗面所が付いており、入居者は身だしなみを整えてから部屋を出ている。基本はベッドを使用しているが、畳を敷いて布団を使用している方もいる。テレビ、ポータブルトイレなどは居室に備え付けてある。家族、入居者の同意を得られた方には、事故を回避するために見守りカメラを設置し、安全対策に役立っている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示もトイレではなく便所と書き直したり風呂場の表示もされたりし人目で分かるようにされている。鉛筆、はさみ、食器なども引き出しに表示しいつでも取りだせるようにしてある。		



## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372102216		
法人名	南部薬品株式会社		
事業所名	グループホーム リズム		
所在地	岡崎市若松町字西之切50		
自己評価作成日	平成22年1月7日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>職員の教育については、定期的に勉強会があり他の研修にも参加できレベルの向上に役立っている。回想法もかね畑では入居者様が手作りの野菜が作られ常に新鮮な野菜が食べられたり、大通りから奥に入っている静かで隣には竹やぶなどがあり季節の変わりが分かり安全で安心して散歩など楽しむことができる。2ユニット関係なく職員も入居者様も一緒にいる時も多く色んな変化にも気付く事が多い。複合施設なのでお互い行き来でき「元気！今日も頑張ろうね」と声を掛け合う場面もみられお互い助け合うこともありボランティアさんの参加も多く一人になることも無く楽しい施設です。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p></p>
---------

### ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	掲示板、廊下、玄関に提示されている。月に一度ミーティングの時確認している。職員がやるのではなく一緒にやりまた、見守ることを職員統一させている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り、運動会、クリスマス会などの行事など地域の子供や近所の方など沢山参加してくれたりし定着している。近所の農家の方から野菜など頂き交流は深い。毎月ボランティアの方がみえ一緒に参加している。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	二ヶ月に一度運営委員会を開き交流また入居者様の様子や出来事を写真を見ていただいたり一緒に参加をしている。民生委員の方も二人増え参加頂いています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議行なったあとは、職員にも伝え報告や話し合いがなされている。総代さんや近所の方の意見を聞きたく組長会議にも参加させていただいています。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に一度市の相談員さんがみえ、一緒に話をしたり中庭で遊んだり長時間にかけ接していただき色々な方面から取り組んで下さっています。職員も相談にのって貰ったりアドバイスをもらったりと交流がとれている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束の内容を確認し常に再確認が出来るようファイルが保管してある。時間があれば職員同士見直しをしている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待、放任の種類なども、しっかり学び常に再確認が出来るようファイルがあり、ミーティング時も話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族会、面会時など話をしている。該当しないため今後の課題となる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時十分な説明をし理解していただけるよう家族の方に不安なく、安心してもらえるまで説明をしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に意見箱を設置している。又、家族会、面会時にも意見を聞くようにしている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングの中で意見や提案を聞くようにしている。又、職員の個別面談もあり不満や意見も聞くようにしている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談、食事会等職員とコミュニケーションをとり日ごとの様子、体調も観察している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に勉強会を開催している。全員参加できるように何回かに分けて行なっている。又、社外研修にも参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小部会、ブロック交流会に参加して相互研修や意見交換等行なっている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族、友人などに情報を聞き、話しやすい環境を整え不安を取り除けるようサポートする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前もこまめに連絡をし、入居に至るまでに不安、困りごとを取り除いている。入居後も同じで最近の様子なども伝えたりしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後、一週間置きにカンファレンスを行い職員だけではなく、ご本人も一緒に参加し要望に添えるよう支援している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	こちらがしてあげるとい姿勢ではなく、させて頂くという気持ちを心掛け、人生の先輩に教えていただくという関係が築かれている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	リズム便りという定期的にご家族に送付する新聞を作り、施設行事や家族会に参加して頂けるように心掛けています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の方はもちろん、知人の方も面会に訪れている。又、家族の方を通じて外出などを呼びかけ、ご本人様が寂しい思いをしないように心がけている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同作業を通して、一人一人の個性を大切にしながら交流を深めています。又、入居者様同士でぶつかる事もありますが、お互いの意見を聞き支えあっていきます。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても年賀など出したり買い物の行きに寄ったりとしている。時々職員、入居者様の顔をみにきていただける方も見え相談したりして今だ良い関係をたもっている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに希望を聞きまた家族にも協力してもらいアセスメントをとり希望を叶えるよう心がけている。職員も希望に答えられるよう担当者会議など向上につとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から生活歴、これまでの暮らしぶりなど書いていただき職員全員把握している。また一緒に居るなかで新しい発見気があれば記入に残し把握していく。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できる事、出来ないシートを作成しできることは無理をせず職員が見守り出来ないではなく一緒にやっていき見守りですむことも増えてきた。新たに見つけ出す事も大切なことなので職員に把握してもらう。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の各担当と職員ケアマネと家族の方と担当者会議を開き要望意見、意向を聞き介護計画書を作成し同意を確認している。モニタリングのほか毎月のミーティングにも話し合いも行なっている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の日課や介護計画書や暮らしぶりのファイルをみて入居者様の一人ひとりの日課表を作り自分でやれたことををうち一日の出来事や反省や感想をきいている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	業務日報、介護記録、連絡ノートを活用し常に対応できるように心がけた毎月のミーティングでも再度話し合いをする。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩、近所の買い物など心がけ施設のイベントも多く全員参加しその人らしく生活が送れるよう、している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医、入居前のかかりつけ医どちらにも受診することができる。協力医療機関等と連携がとれておりいつでも適切な医療がうけられるよう支援している。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しでも変化があれば看護師に相談し往診時伝えたり連絡ノートやファイルを活用し細かいことまで記入適切な受診ができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、本人、家族の方の同意のもと情報交換や相談にも努め病院関係には面会をこまめに行き本人の様子を見に行っている。病院関係の方とも相談するとよいアドバイス協力をしてくれる。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	24時間看護師と連絡が取れ協力体制ができている。対象者の方がみえないが、勉強会や他のグループホームの方に聞いたりしている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内の勉強会や社外の勉強会など出席している。ミーティング時にもやり学んでいる。緊急マニュアルがファイルと電話の隣においてある。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二度消防訓練を行い消防の方にも来て頂き消火器などの使い方など実際に触れたり夜間時の対応も夜勤者と話し合いをしたり通路の確認を毎月行っている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人取り扱いは職員全員に説明をし記録などは事務所で管理されている。馴れ合いすぎる言葉や話し方など注意するなど信頼関係が慣れなれしくならないよう職員同士確認みなおしをしている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの能力や状態にあったサポートをし、押し付けにならないように希望や表出引き出せるよう心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご自分のペース、趣味を生かして時間に制限なく過ごしていただいている。入浴も午前、午後どちらでも好きな時間に入浴していただいている。見えない心の動きも取れるとより良い生活になる。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度メナード化粧品や美容など本人様に聞き行なったり女性職員が多いので一緒に服を選んだり買い物に行ったりと行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事を作ったり買い物へ行ったり献立を決めたりして入居者様が好きな物など聞き栄養色合いなど考え一緒に行なっている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量など介護記録にて記入し月単位で変化がわかるようになっている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアは必ず行なっている。見守り、介助の必要な方もいるので職員の指導も兼ねて勉強会も行なっている。訪問歯科の先生にもしっかりできていると言って貰え職員の意識の向上につながった。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方にあった排泄方法で声掛けや見守りなど困難などあればカンファレンスや会議など開き実際にオムツからリハパンに変更になったケースもある。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	介護記録など家族からの情報のもと便秘など気を付け運動、体操など毎日行なっている。献立にも気を配っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望があれば午前、午後好きな時間に入浴でき体調に合わせて安心してゆっくり入浴でき会話などで安らげるよう支援している。複合施設なので大浴も使用し温泉気分を楽しむときもある。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決まっておらず好きな時間にやすまれ就寝するまで一緒にくつろぐなど安心できるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員薬剤の目的や用法など把握している。新人には時間の空いているとき観てしっかり覚えてもらう。服薬時声掛けなどして服用するまで確認する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の個性を生かし今やってみたいことなど聞き支援している。掃除、洗濯、食事作り、畑仕事針仕事など年に二度の日帰り旅行も行き先をみんなで意見を出しきめている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日中は、中庭の出入り口を開放いつでも行き来できるようにしている。外気浴を楽しんだり食材を買いに外出したり近所の薬局に遊びに行くなど行きたい所はなるべく行けるように支援している。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時お金を渡し個人でお菓子、野菜など買い物して頂いています。外食の時も好きな物を自分で選びや頼んで買うを一緒にやっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ手紙を書くこともありハガキを買うところから始め楽しさ忘れないよう支援しています。電話も予め電話する日にちを家族のかたに了解を受け電話し楽しいひと時を過ごしてもらっています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使われている家具、や私物などを持ってきて頂いたりなるべく施設感の無いように工夫を心掛けています。廊下やフロアーには季節感をだしレイアウトされ入居者様の目にとまる。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各部屋に椅子など入れ入居者様同士話をしたりお菓子たべたりすることも多くなり楽しまれている。外にはベンチ、ロッキングチェアなどを置き外気浴を楽しまれたりされています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使われているものを持ち込みご本人様の好きな位置に家具など置き散歩で頂いた花や絵などご自分で飾ったりされている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示もトイレではなく便所と書き直したり風呂場の表示もされたりし人目で分かるようにされている。鉛筆、はさみ、食器なども引き出しに表示いつでも取りだせるようにしてある。		



(別紙4(2))

事業所名 グループ ホーム リズム

## 目標達成計画

作成日: 平成 22 年 3 月 24 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		実務経験年数、二ヶ月の新人、5年以上の職員と経験年数が多くても忘れていた事、知らない事など新人含めてある。勉強会などを開きステップアップをしていきたいとミーティングなので意見が出ているので計画したい。	月に、1度勉強会を開催しているが別で1回～2回開催する。(社内、社外)	勉強したい内容などミーティング時に話し合い施設全体でひらいてもらい参加する。社外はファックスなど情報がくるので交代で参加する。ミーティング時などで勉強会に出席した職員に報告、資料などを配布してもらう。	12ヶ月
2		ヒヤリハット、事故報、新人も含め、事故報なのかヒヤリハットなのかと相談にきたり自分なりに決め書いて提出したりと判断があいまいで、提出しない報告しないと後から気づくときもありまた事故報だけで是正処置報告書までいかない件数もある。	ヒヤリハット、事故報告書の書き方の指導し報告の統一を計り昨年度のヒヤリハット件数の2倍とする。	現状把握し内容の検討、ヒヤリハット、事故報記入の勉強会をし、ヒヤリハット、事故発生じ記後、カンファレンス、ミーティング時統一されているか検討する。予防処置報告書又は正処置報告書記入。実施確認、効果確認。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。